

2021年3月期

決算説明資料

2021年5月27日



目次

- ・ 2021年3月期 決算報告 P 3 ~ P 10
- ・ 2022年3月期 通期計画 P 11 ~ P 18
- ・ 利益還元について P 19
- ・ 中期経営計画における取り組み P 20 ~ P 22
- ・ 価値創造にむけて P 23 ~ P 41

■ 新型コロナウイルスによる当社グループへの影響

- ✓ 各種駅務機器や駐車場管理システムについては顧客の設備投資が大きく抑制された一方、鉄道信号など安全・安心につながる設備投資は受注済案件等を中心におおむね順調に推移。
- ✓ 海外事業は、一部の案件に進捗遅れ、入札が延期。
- ✓ 社会インフラを支える当社グループの使命を果たすため、従業員とその家族の安全確保に努め、生産活動ならびに顧客対応可能な体制を維持。
(テレワークの実施、フレックスタイム制度や時差出勤制度の拡充、ITツールの導入等)

■ W i t h / A f t e r コロナ時代における事業環境変化への適応

- ✓ 中期経営計画の重点課題である変化を先取りしたビジネス創出と技術力強化の一環として、DX（デジタル・トランスフォーメーション）、脱炭素社会を踏まえた製品やサービスの開発と営業活動に注力。
- ✓ 主要顧客の設備投資抑制傾向は当面継続すると想定し、Accelerate（変革の加速）に取り組む。

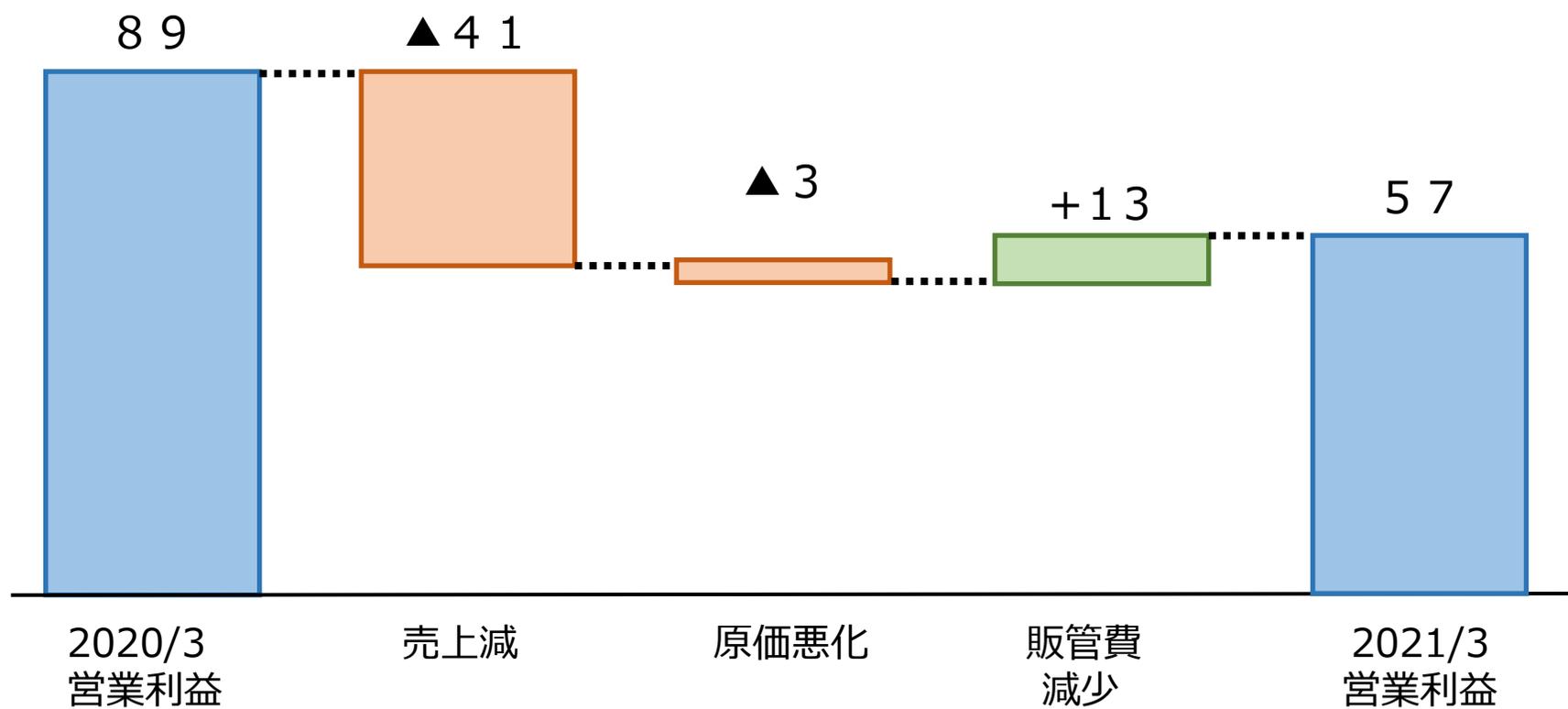
決算ハイライト

- 前期比：新型コロナウイルス感染拡大の影響により減収減益。
- 計画比：受注済案件、安全・安心に関わる売上が堅調に推移、費用削減に取り組み
2020年8月公表値に比べ、改善。

(単位：億円)	2020/3	2021/3			
	実績	実績	前期比	公表値	公表値との差
売上高	1,116	927	▲189	850	+77
営業利益	89	57	▲31	45	+12
経常利益	96	64	▲32	47	+17
親会社株主に帰属 する当社純利益	65	49	▲16	28	+21

営業利益 増減要因（前期比）

(億円)



セグメント別①売上高・セグメント利益

- 売上高：2つのセグメントとも、公表値を上回ったものの前期比で減少。
- セグメント利益：交通運輸インフラ事業は、前期比、公表値ともに増加。
一方、ICTソリューションは、減少。

(単位：億円)	2020/3		2021/3		前期比		公表値		公表値との差	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益
	交通運輸 インフラ事業	559	62	511	71	▲47	+8	480	56	+31
ICT ソリューション 事業	557	62	415	16	▲141	▲45	370	21	+45	▲4
全社費用	-	▲35	-	▲30	-	+4	-	▲32	-	+1
合計	1,116	89	927	57	▲189	▲31	850	45	+77	+12

セグメント別②受注高・受注残高

(単位：億円)	2020/3			2021/3			前期比		
	受注高	売上高	受注残高	受注高	売上高	受注残高	受注高	売上高	受注残高
鉄道信号	553	483	481	428	435	475	▲124	▲47	▲6
スマートモビリティ	74	76	4	75	76	2	+1	0	▲1
交通運輸 インフラ事業	627	559	486	504	511	478	▲123	▲47	▲7
AFC	361	358	229	263	328	172	▲98	▲29	▲56
スマートシティ	196	198	21	84	86	10	▲112	▲111	▲11
ICTソリューション 事業	558	557	250	347	415	183	▲210	▲141	▲67
合計	1,186	1,116	736	851	927	661	▲334	▲189	▲75

鉄道信号

J R・公営交通・私鉄各社向けのA T C（自動列車制御装置）のシステム更新や、C T C（列車集中制御装置）等の各種信号保安装置の設置工事の受注・売上。

スマートモビリティ

交通管制システムの中央装置や道路情報板の設置、パーキングメーターの改良工事等の受注・売上。

AFC

ホームドアを中心に、各種駅務機器、パーキングシステムソリューション等の受注・売上。

スマートシティ

3 D距離画像センサや、X線手荷物検査装置、地中レーダ等の受注・売上。

セグメント別③海外事業の売上

(単位：億円)	2020/3			2021/3			前期比		
	受注高	売上高	受注残高	受注高	売上高	受注残高	受注高	売上高	受注残高
鉄道信号	553	483	481	428	435	475	▲124	▲47	▲6
鉄道信号のうち海外	64	102	220	20	50	190	▲44	▲51	▲29
AFC	361	358	229	263	328	172	▲98	▲29	▲56
AFCのうち海外	5	23	56	3	30	28	▲2	+6	▲27
海外合計	70	125	277	23	81	219	▲46	▲44	▲57

海外全体

新型コロナウイルス感染症の影響により、一部案件の進捗に影響。

海外鉄道信号

台湾南廻線での鉄道信号保安装置等の売上。

海外AFC

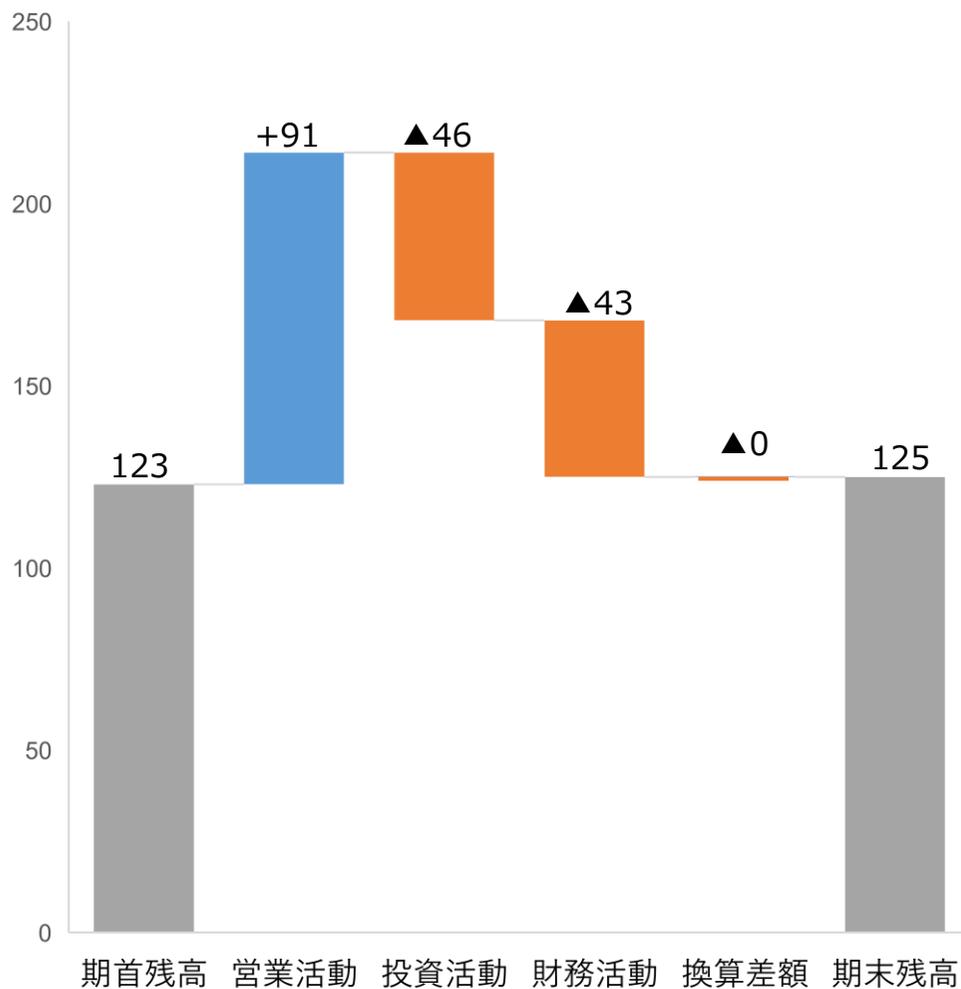
バングラデシュ・ダッカMRT 6号線やタイ・バンコクレッドラインにおける駅務システムの売上。

財政状況

(単位：億円)	2020/3	2021/3	
		実績	前期比
総資産	1,379	1,413	+33
売上債権・棚卸合計	779	775	▲3
有利子負債	130	165	+34
自己資本	796	846	+50
売上債権・棚卸比率	56.5%	54.9%	▲1.6pt
有利子負債比率	9.5%	11.7%	+2.2pt
自己資本比率	57.7%	59.9%	+2.2pt

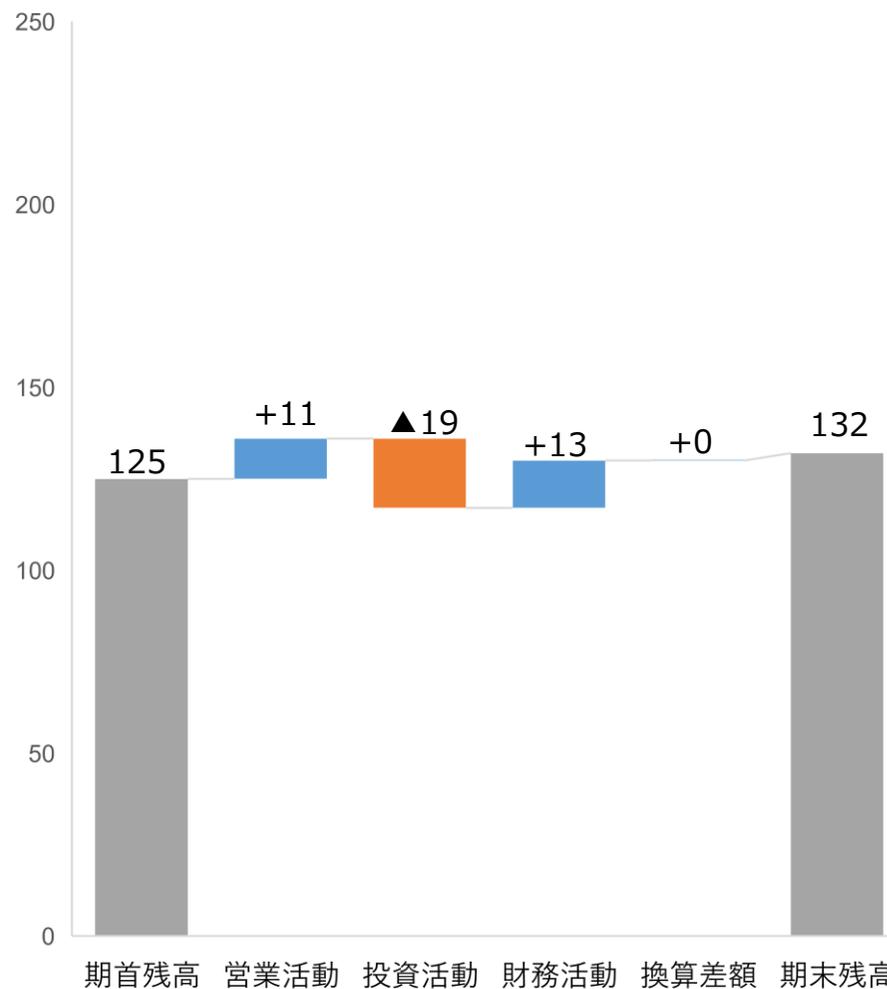
キャッシュフロー計算書

(億円)



2020/3

(億円)

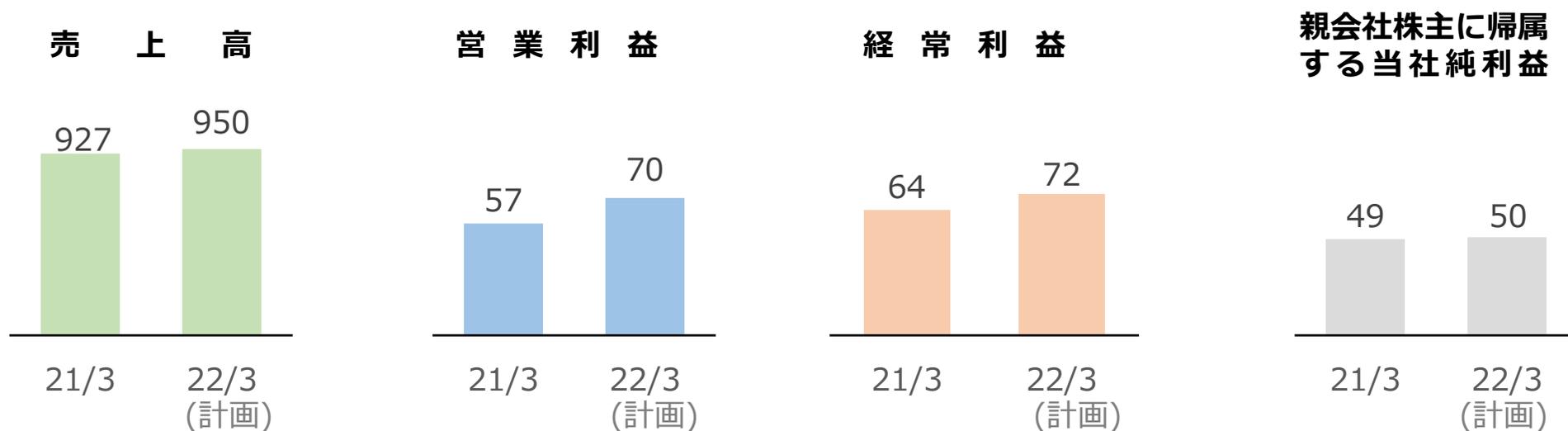


2021/3

2022年3月期通期計画

計画

(単位：億円)	2020/3	2021/3	2022/3	
			計画	前期比
売上高	1,116	927	950	+22
営業利益	89	57	70	+12
経常利益	96	64	72	+7
親会社株主に帰属 する当社純利益	65	49	50	+0



受注高・売上高推移（鉄道信号）

計画

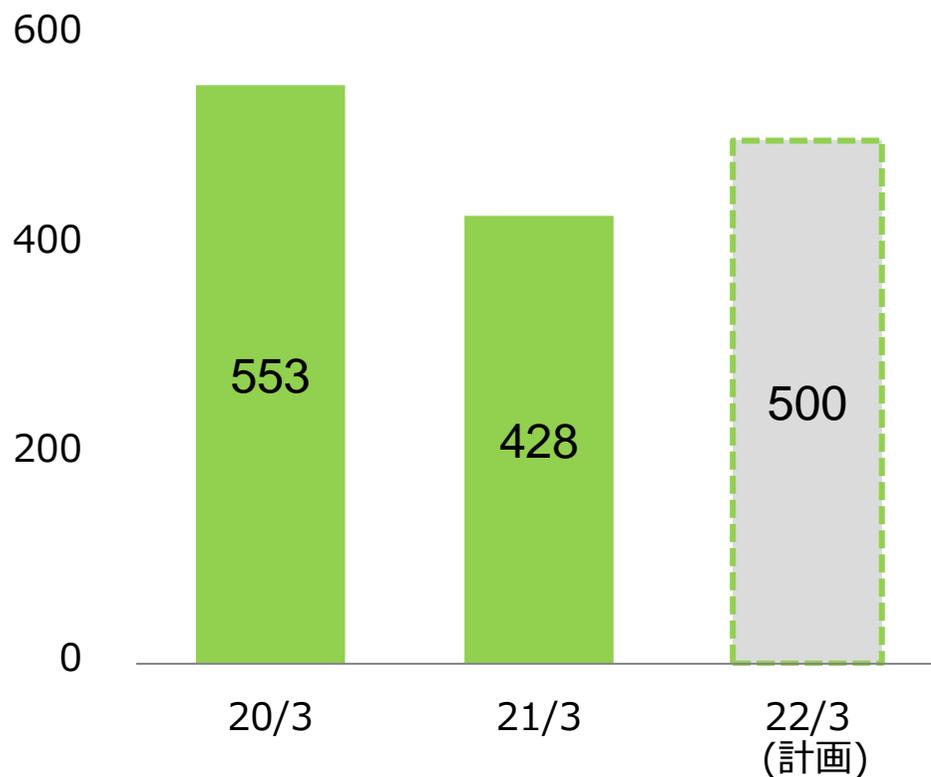
鉄道信号事業

信号保安装置をはじめとする各種機器の付加価値の創造を促進し、社会課題である労働人口の減少、自然災害、脱炭素に対応した製品の開発に取り組む。

主な事業内容：自動列車制御装置（ATC）、無線式列車制御システム（SPARCS）ほか

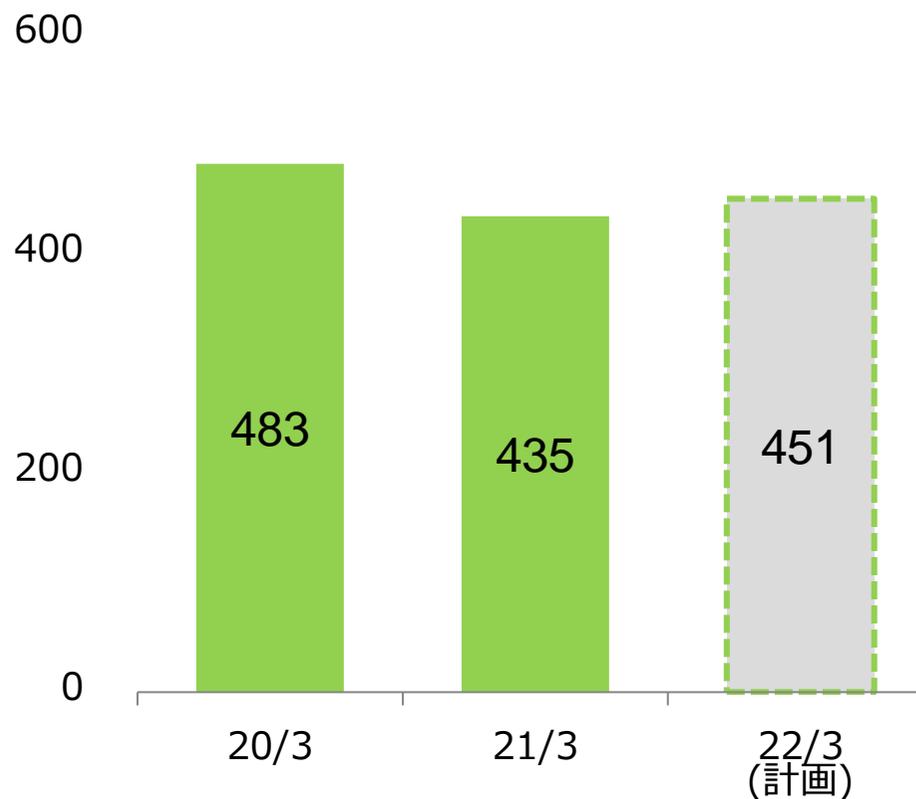
受注高

(億円)



売上高

(億円)



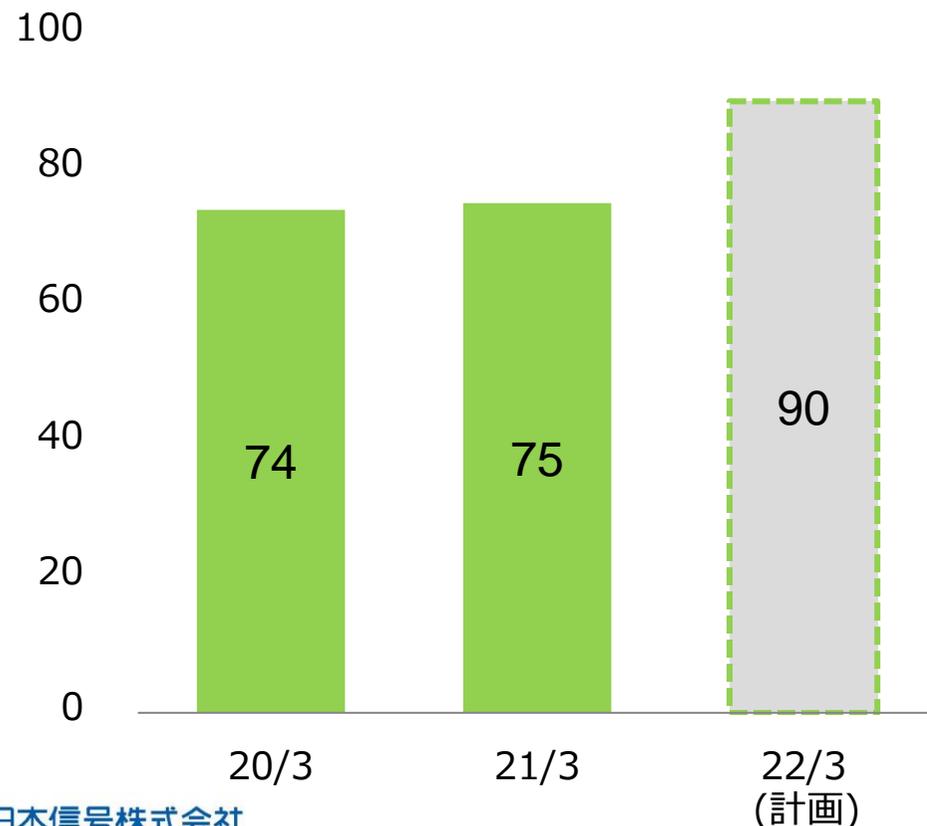
スマートモビリティ事業

「ファースト・ラストワンマイル（FL1M）」サービスや、信号機等のインフラと自動運転車両が連携した路車協調型の自動運転関連サービスの実用化に向けた製品開発、事業化に取り組む。

主な事業内容：交通管制システム，交通信号制御機・灯器 ほか

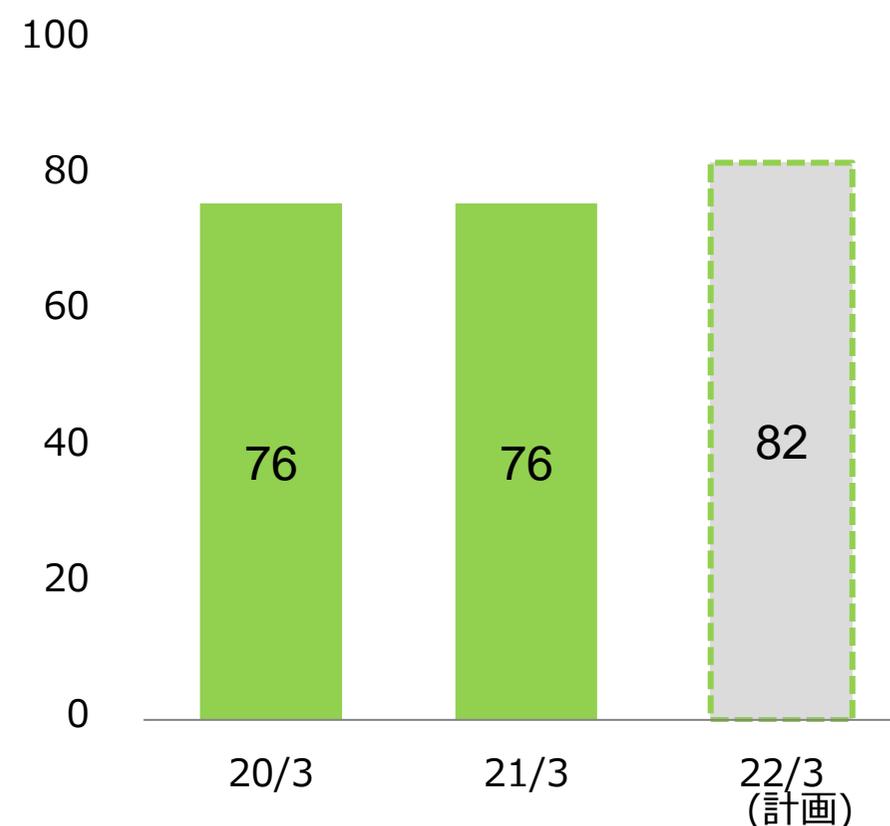
受注高

(億円)



売上高

(億円)



受注高・売上高推移 (AFC)

計画

A F C 事業

M a a Sを見据えたキャッシュレス決済システム、画像処理等のビジネス環境が拡大していくと捉え、新たなスマートモビリティ社会・決済システムに対応する新製品の市場投入、新事業の創造を図る。

主な事業内容：自動改札機，ホームドア，駐車場管理システム（ほか

※ 21/3期より駐車場関連はスマートシティ事業より移管

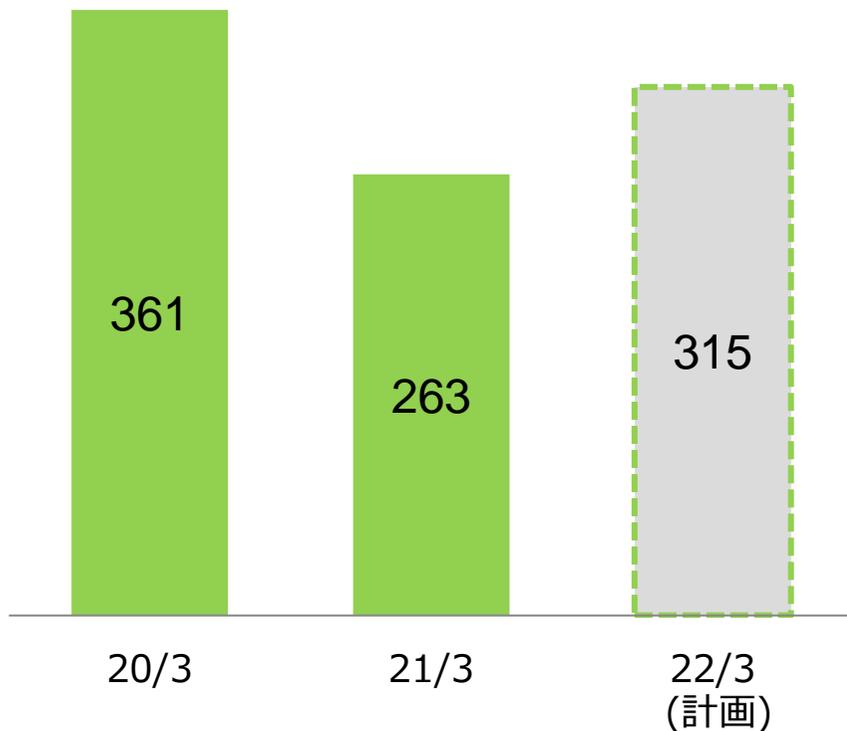
受注高

(億円)

400

200

0



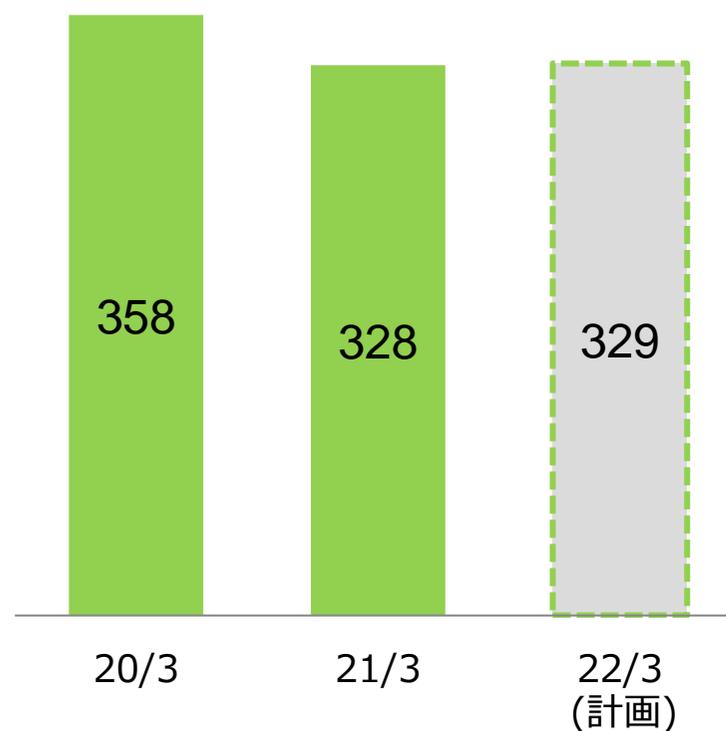
売上高

(億円)

400

200

0



受注高・売上高推移（スマートシティ）

計画

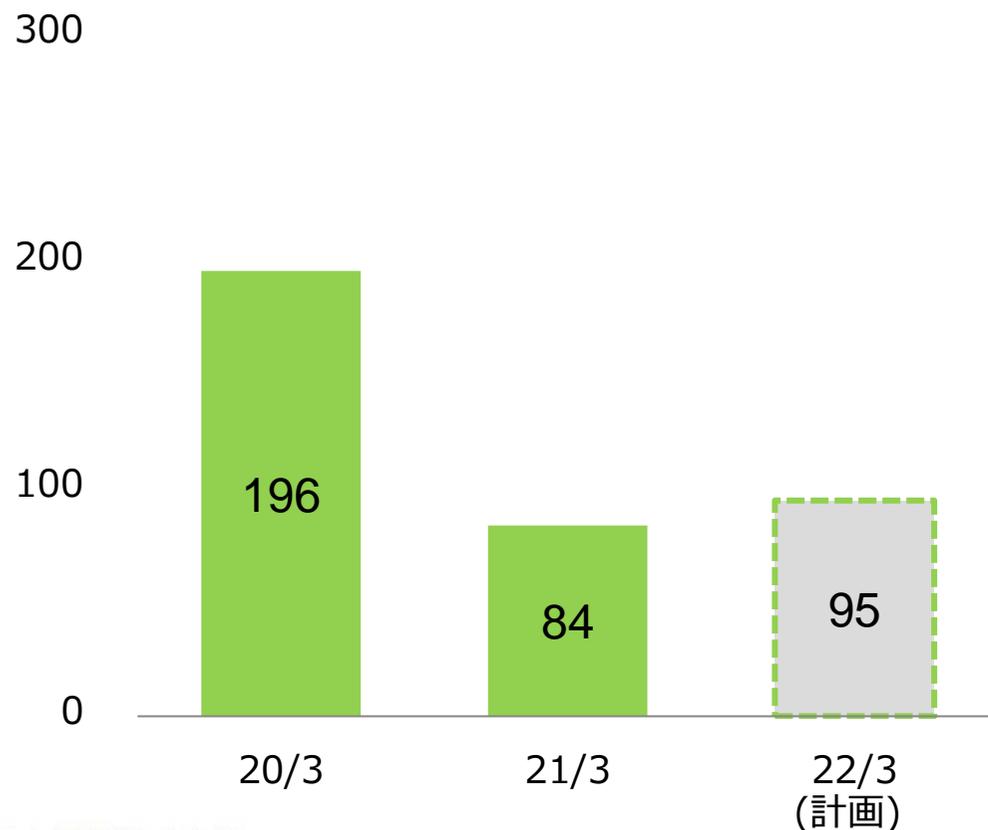
スマートシティ事業

セキュリティゲートのラインナップの充実を図り、顔認証、非接触技術等の新技術にも対応。自動清掃ロボット開発から得た知見を活かし、自律汎用人型重機の開発にも取り組む。

主な事業内容：セキュリティゲート、自動清掃ロボット、3D距離画像センサ ほか

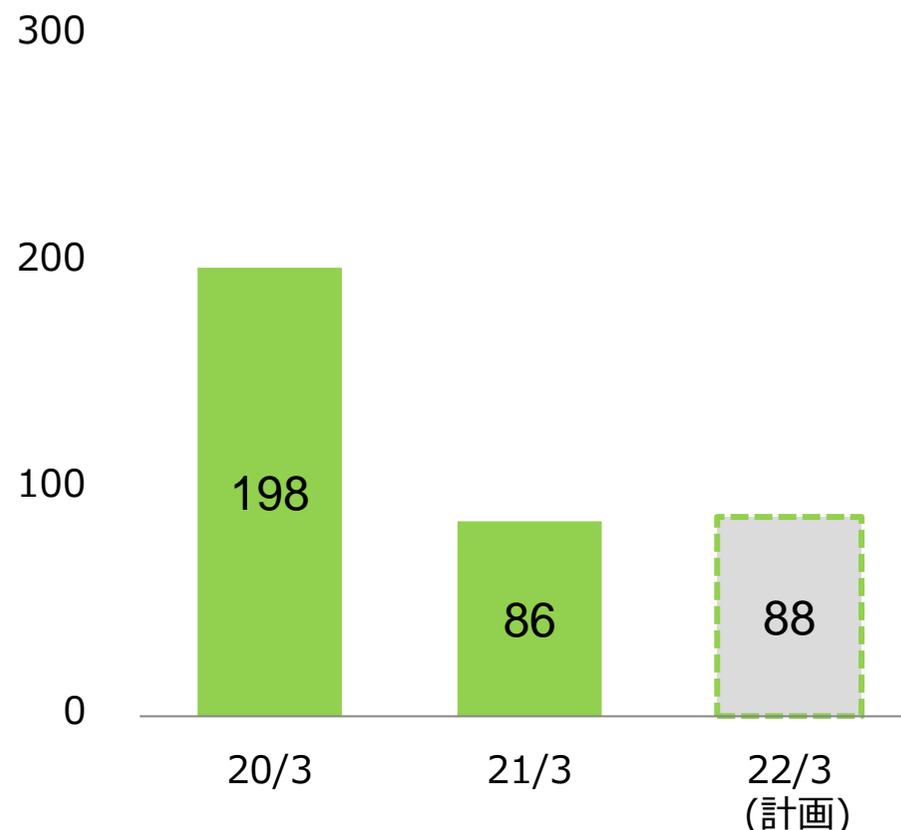
受注高

(億円)



売上高

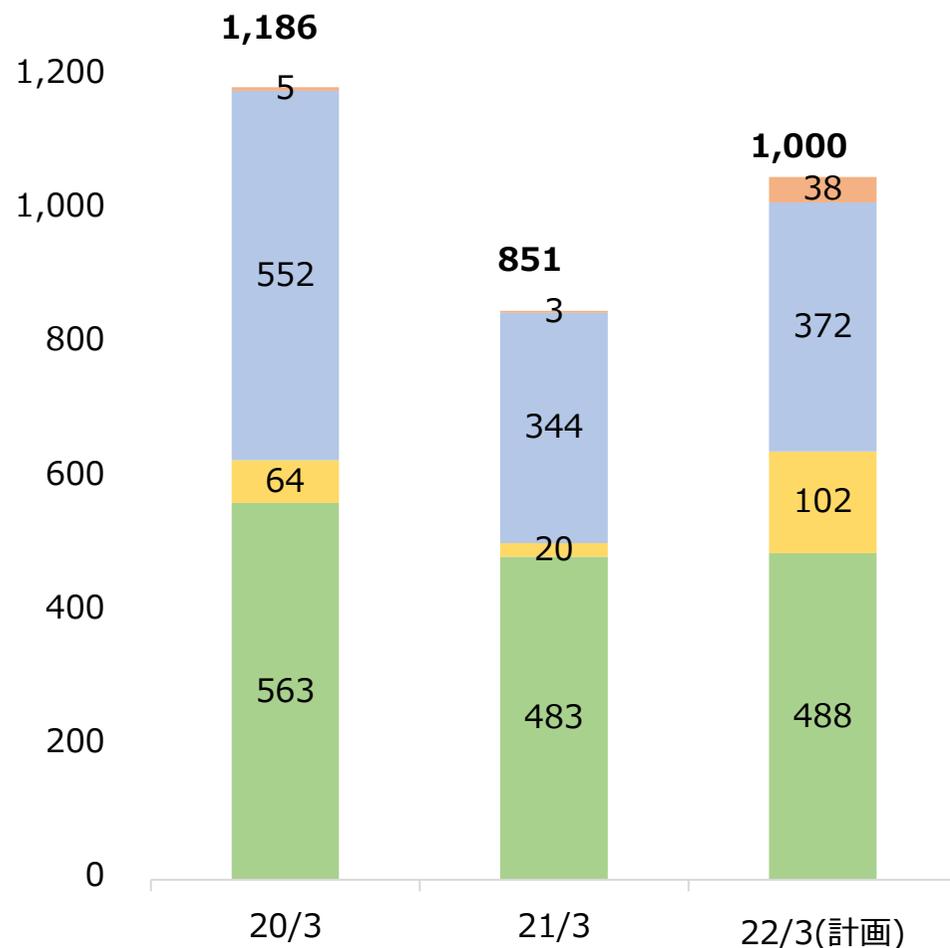
(億円)



※ 21/3月期から駐車場関連は AFC事業へ移管

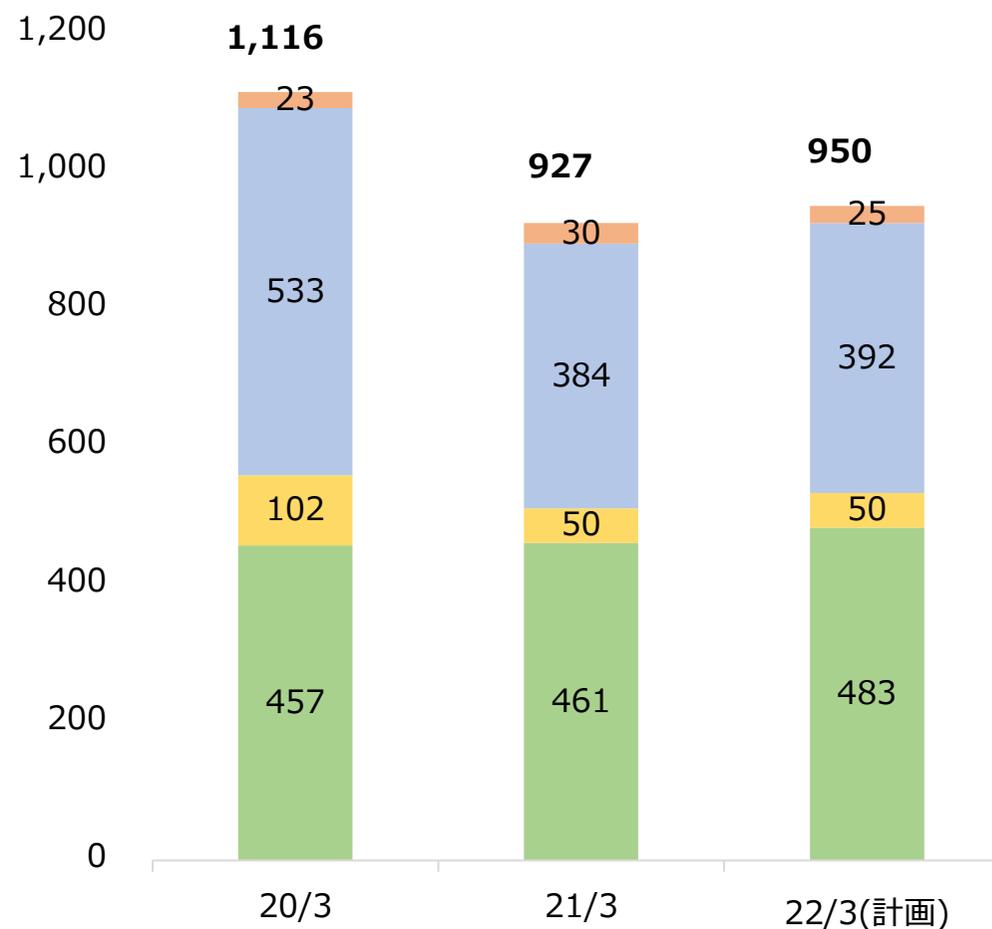
受注高

(億円)



売上高

(億円)



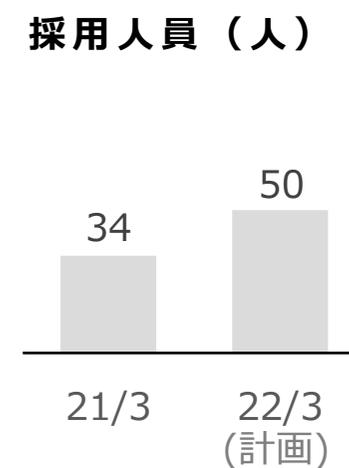
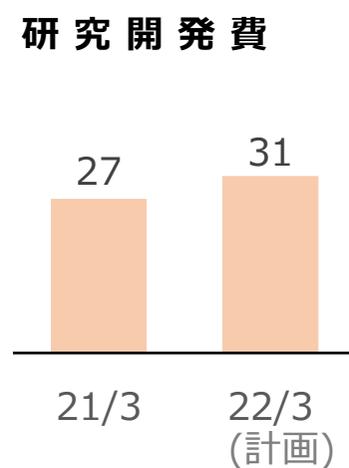
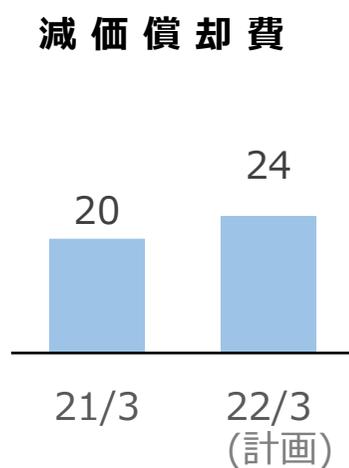
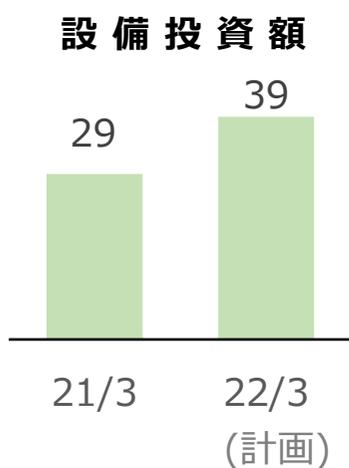
- ICTソリューション（海外）
- ICTソリューション（国内）
- 交通運輸インフラ（海外）
- 交通運輸インフラ（国内）

セグメント別（セグメント別利益）

計画

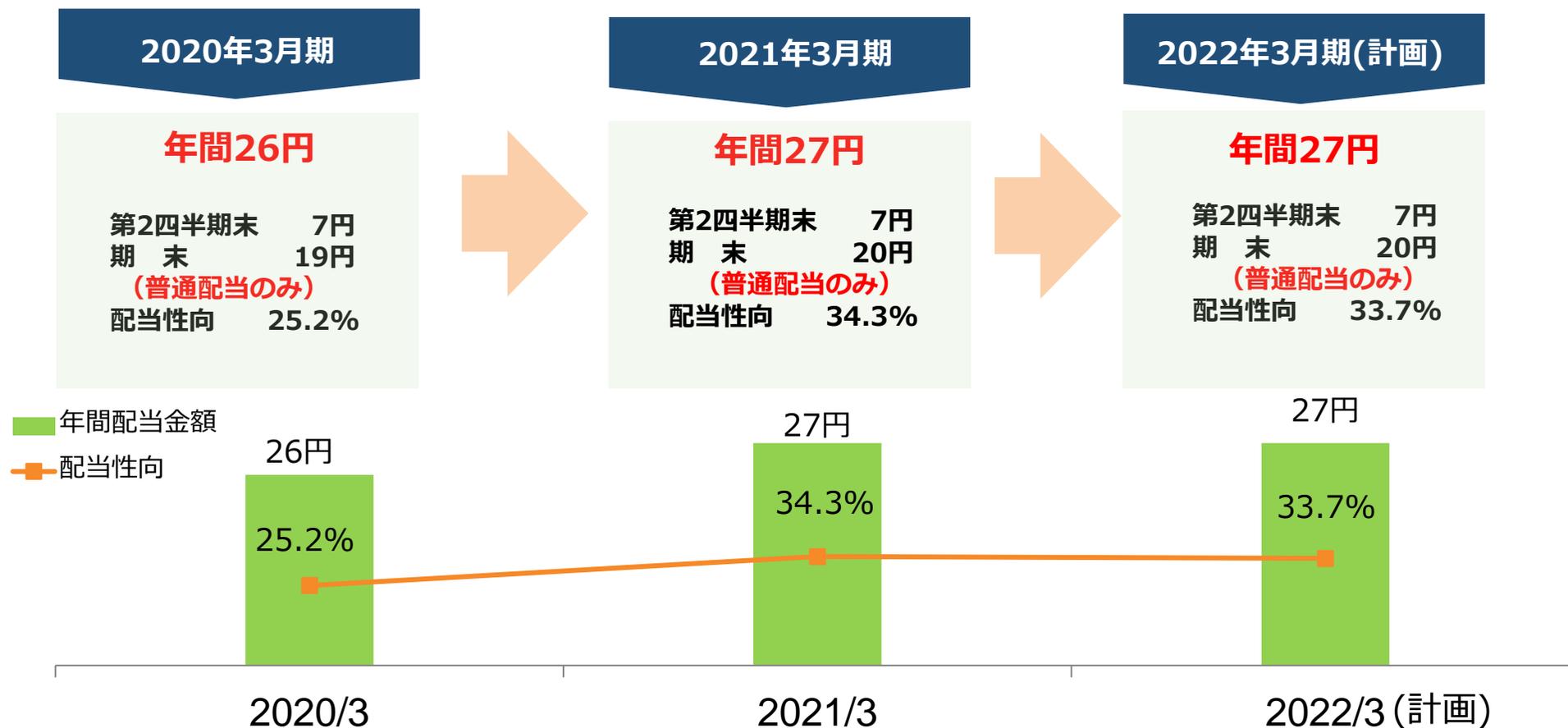
(単位：億円)	2020/3	2021/3	2022/3	
			計画	前期比
交通運輸 インフラ事業	62	71	73	+1
ICTソリューション事業	62	16	29	+12
全社費用	▲ 35	▲ 30	▲ 32	▲ 1
合計	89	57	70	+12

(単位：億円)	2020/3	2021/3	2022/3	
			計画	前期比
設備投資額	24	29	39	+10
減価償却費	20	20	24	+3
研究開発費	28	27	31	+4
採用人員 (人)	79	34	50	+16



利益還元（配当金）について

- 配当については、財務体質の強化を図りつつ毎期の業績・新規投資を勘案しながら、連結配当性向30%前後を目安に安定的・継続的に行うよう努めています。
今回の第138期末配当につきましては、業績が計画値を上回ったため、株主還元の強化を図ることとし、従来公表しておりました1株当たりの期末配当金19円から1円増額し、1株当たり20円とさせていただきます。これにより先に実施した中間配当7円とあわせて年間配当は1株当たり27円となります。



中期経営計画（21中計）における取り組み



市場環境

- ✓ 主要顧客の設備投資抑制傾向は当面継続
- ✓ 固定費削減、変動運賃制導入などの構造改革が急務

当社グループ

- ✓ 長期経営計画「Vision-2028 Evolution100」および、中期経営計画「21中計」で示した**変革を加速**

新中期経営計画「24中計」策定へ

中期経営計画（21中計）における取り組み

定量指標の状況

コロナ禍における顧客の投資抑制等により売上減とするも、環境変化に対応した製品・サービスの提供等構造改革の加速を図る。

	2020年3月期 (実績)	2021年3月期 (実績)	2022年3月期 (計画) ①	中計最終年 目標値 (策定時) ②	差異 (① - ②)
売上高	1,116億円	927億円	950億円	1,200億円	▲250億円
海外売上高比率	11.3%	8.7%	7.9%	14.0%	▲6.1pt
営業利益率	8.0%	6.2%	7.4%	10.0%	▲2.6pt
ROE	8.1%	6.0%	5.8%	9.0%	▲3.2pt
自己資本比率	57.7%	59.9%	50~60%	50~60%	—

中期経営計画（21中計）における取り組み

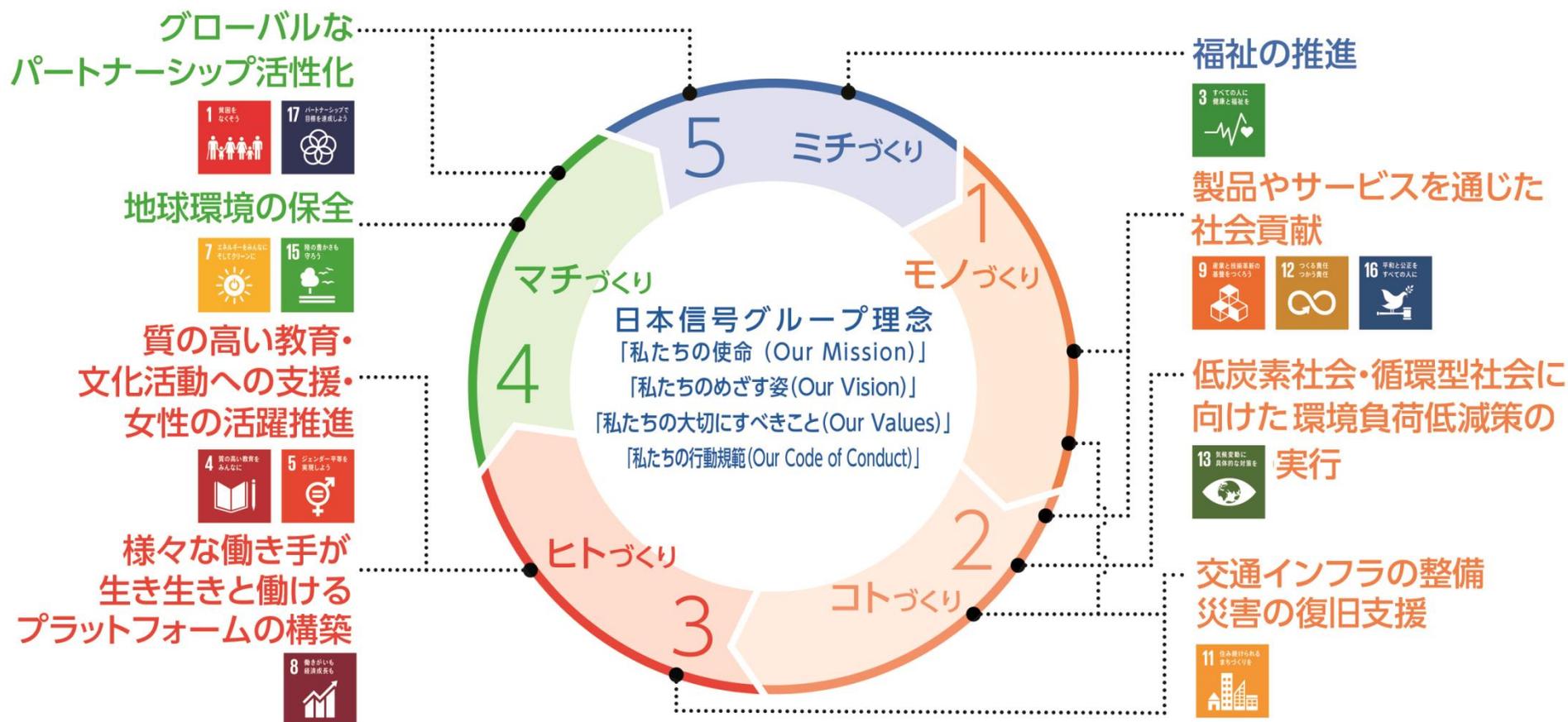
重点課題の今後の取り組み

今期基本コンセプト：Accelerate（変革の加速）

重点テーマ	未来を掴みとる力（成長力）の強化	稼ぐ力（収益力）の向上	
重点課題	1 変化を先取りしたビジネス創出と技術力の強化 <ul style="list-style-type: none">顧客の経営課題に寄り添う製品サービスの提供新分野の製品開発及び市場開拓により、急速に進むDXへの適応	2 競争力あるQCD実現 <ul style="list-style-type: none">設計のフロントローディングや自動化による品質向上と効率化案件履行能力とリスクマネジメント強化、工程整流化による国際事業の拡充	
	3 成長のための人材の育成・確保 <ul style="list-style-type: none">グローバルな人材、DX人材の育成、獲得マネジメントシステムの整備	4 持続的な企業価値向上 <ul style="list-style-type: none">ESG、SDGsを意識した経営の推進成長投資、働き方改革、ブランディング、IT活用、グループ再編等の取り組み	

SDGsへの取り組み

日本信号グループは、企業価値を向上し続けていくために、「持続可能な開発目標（SDGs）」を意識した経営を進めています。



DXの推進

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



国内初 在来線自動運転の実証運転スタート

九州旅客鉄道株式会社様にて、当社が納入したATSシステムをベースとした自動列車運転装置」を用いた自動運転実証運転が開始。
在来線（ATS区間、踏切あり）における自動運転の導入は国内初。



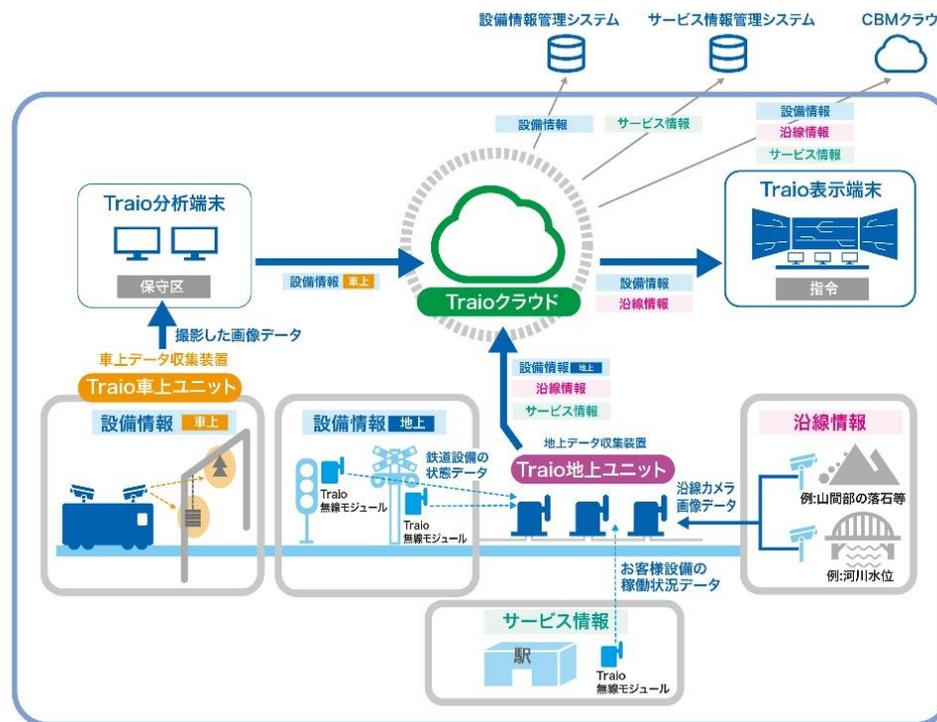
DXの推進

9 産業と技術革新の基盤をつくろう



「Traio」導入が決定

西日本旅客鉄道株式会社様の営業路線にて、「Traio※」導入が決定。Traioは鉄道の設備情報・沿線情報・サービス情報を、地上のIoTネットワークと車上の映像システムによって収集し、クラウドで蓄積・分析するシステム。



システム導入イメージ

※Traio…「Train+IoT」を組み合わせた造語。システムの一部は、西日本旅客鉄道株式会社様との共同開発品。

DXの推進

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



公道初 中型自動運転バス実証実験に参加

信号の灯色情報、対向車や横断歩行者との衝突リスクを予測し、自動運転バスに通知する技術を、北九州市・苅田町における中型自動運転バス実証実験に提供。



DXの推進

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



全国初 一般車両混在での自動バレーパーキング実証実験

自動運転車と一般車両が混在した、自動化レベル4の自動バレーパーキングシステム実証実験に参加。自動バレー管制システムの全体設計。カメラなどインフラシステムを使用し、自動運転車の安全な運行を支援。



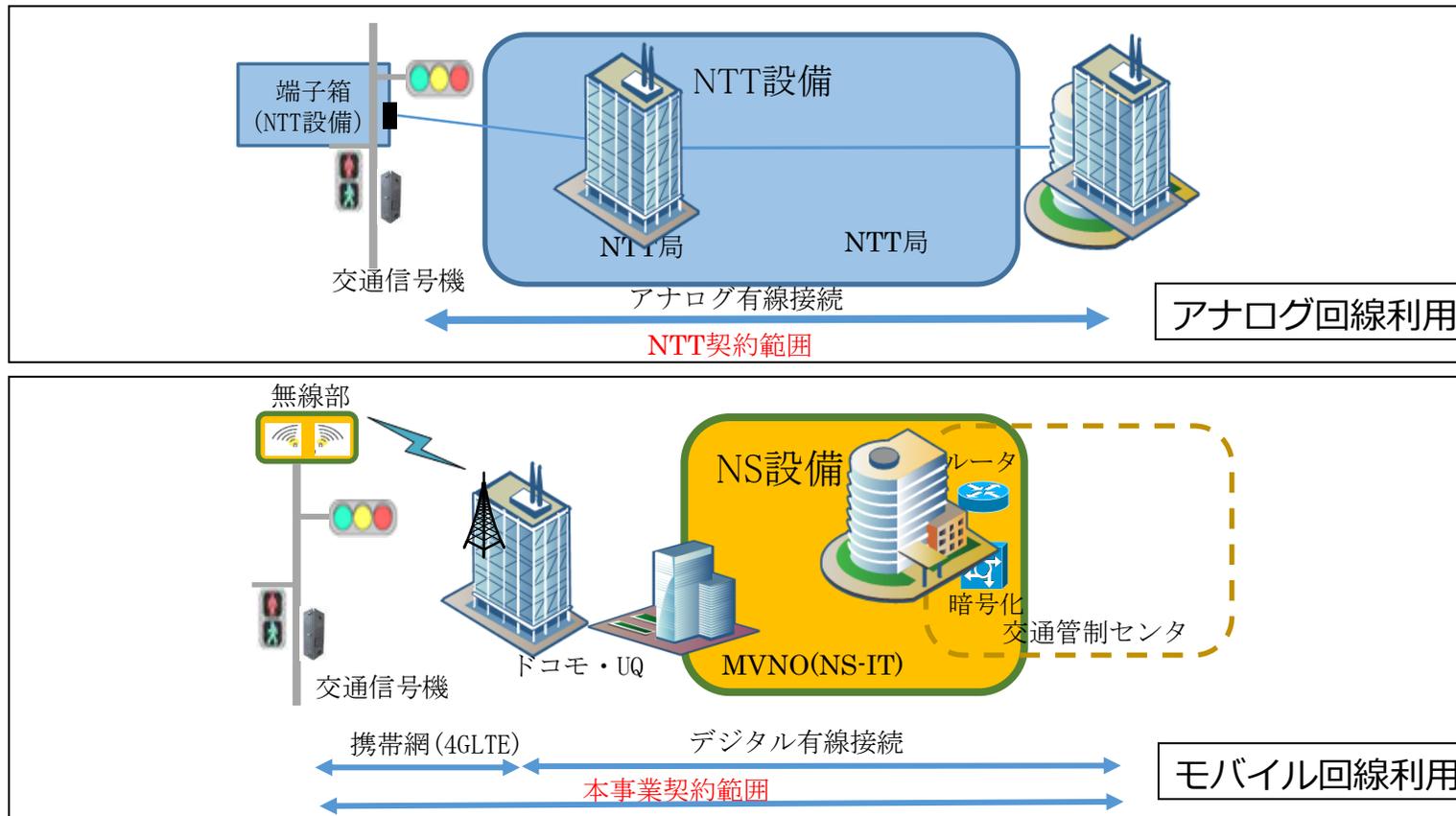
DXの推進

9 産業と技術革新の基盤をつくろう



MVNOサービスを開始

交通管制センターと集中制御交差点間の通信をアナログ回線から、デジタル回線化(LTE)する閉域ネットワーク網の構築と回線提供サービスを開始。

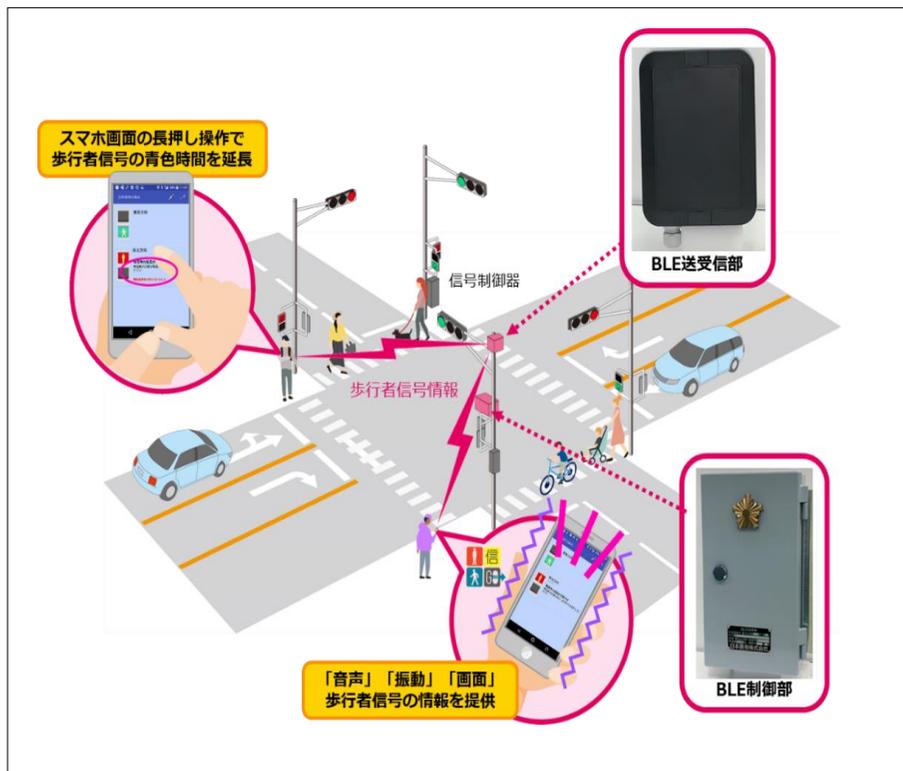


DXの推進

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



歩行者信号の情報を提供するアプリ「信GO!」をリリース
スマートフォンに歩行者用信号の状態や歩行横断時の青時間を延長することで、交通制約者の安全を支援。使用可能箇所も順次拡大中。



実際のアプリ画面



詳細はこちら

DXの推進

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



鉄道における高所作業用人型ロボットを開発

今後の少子高齢化社会における労働力不足に備え、鉄道の終電後のメンテナンスにおける重筋作業の解消と効率化を目的に、汎用的に活躍する高所作業用人型ロボットを開発し、製品化を目指す。



零式人機 ver.1.0

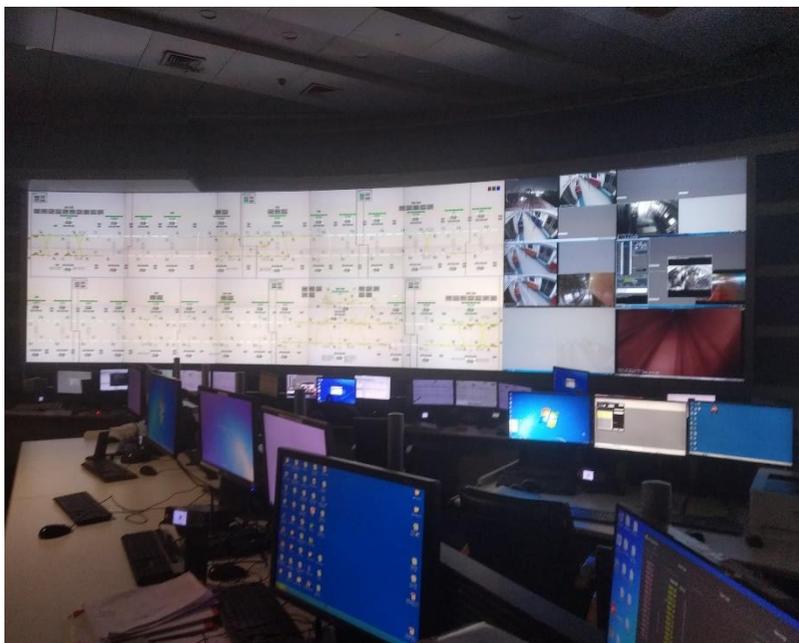
脱炭素への取り組み

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



デリーメトロ8号線にて無人運転開始

無人運転のレベルで最も難易度の高い、係員が乗車する必要がなく完全無人で運行管理する自動運転を開始したことで省人化を推進し、電源の自動制御等により、消費電力の低減を実現。



中央指令所の様子



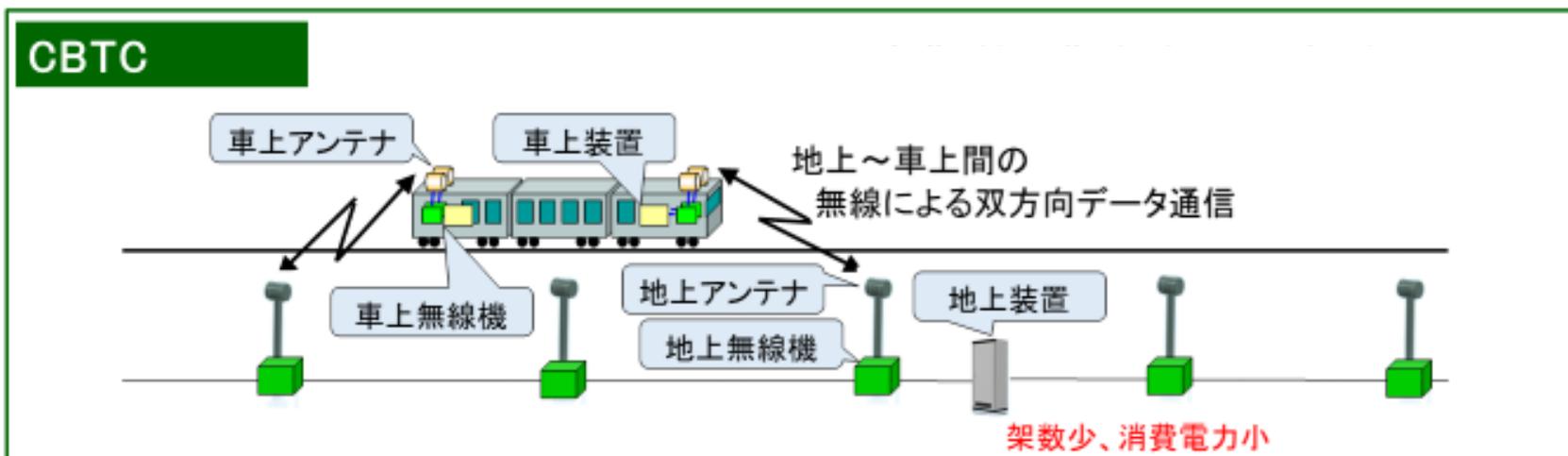
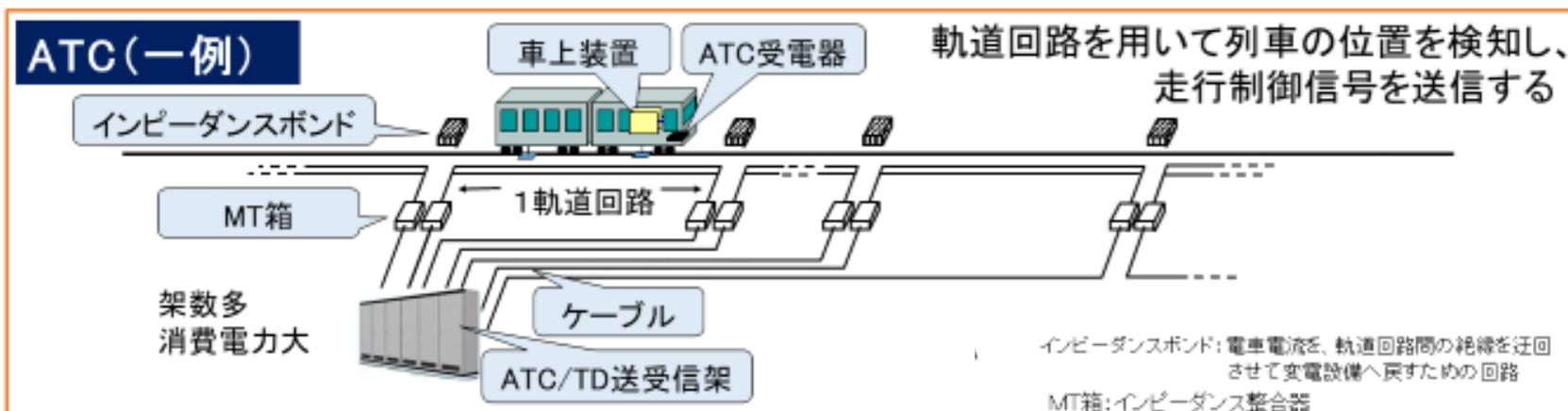
完全無人運転の車両

脱炭素への取り組み

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



無線式列車制御システム（CBTC）



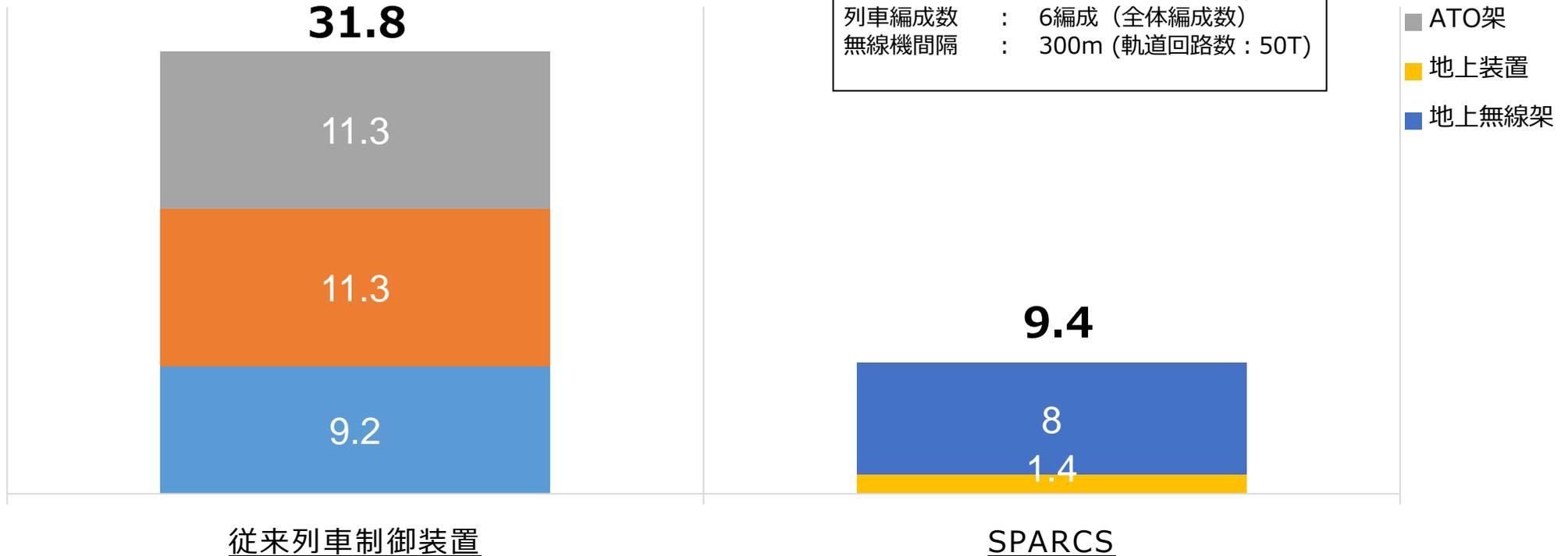
※CBTC…Communications-Based Train Control

脱炭素への取り組み



当社製CBTC（SPARCS）と従来列車制御装置の年間CO2排出量の比較

(単位：t)



前提条件
路線タイプ : 在来線、鉄輪、複線
路線長 : 7.5km
駅数 : 4駅 (機器室は一つ)
列車編成数 : 6編成 (全体編成数)
無線機間隔 : 300m (軌道回路数 : 50T)

- ATC架
- TD架
- ATO架
- 地上装置
- 地上無線架

SPARCS (Simple-structure and high-Performance ATC by Radio Communication System)

脱炭素への取り組み

9 産業と技術革新の基盤をつくろう



ホームドアの軽量化

基本構造の見直しを図り、製造プロセスの効率化、設置時のホーム補強工事軽減等により、必要なエネルギーを削減。



腰丈式ホームドア



締結構造型ホームドア（質量従来比質量18%減）



西武国分寺駅軽量型ホームドア(質量従来比40%減)

脱炭素への取り組み



創業記念事業の一環として、「日本信号の森」を開設

当社役員・社員を中心に森林保全活動を実施

創業80周年（2008年～2017年）

創業90周年（2019年～）

埼玉県東秩父村

栃木県矢板市（栃木県県民の森）



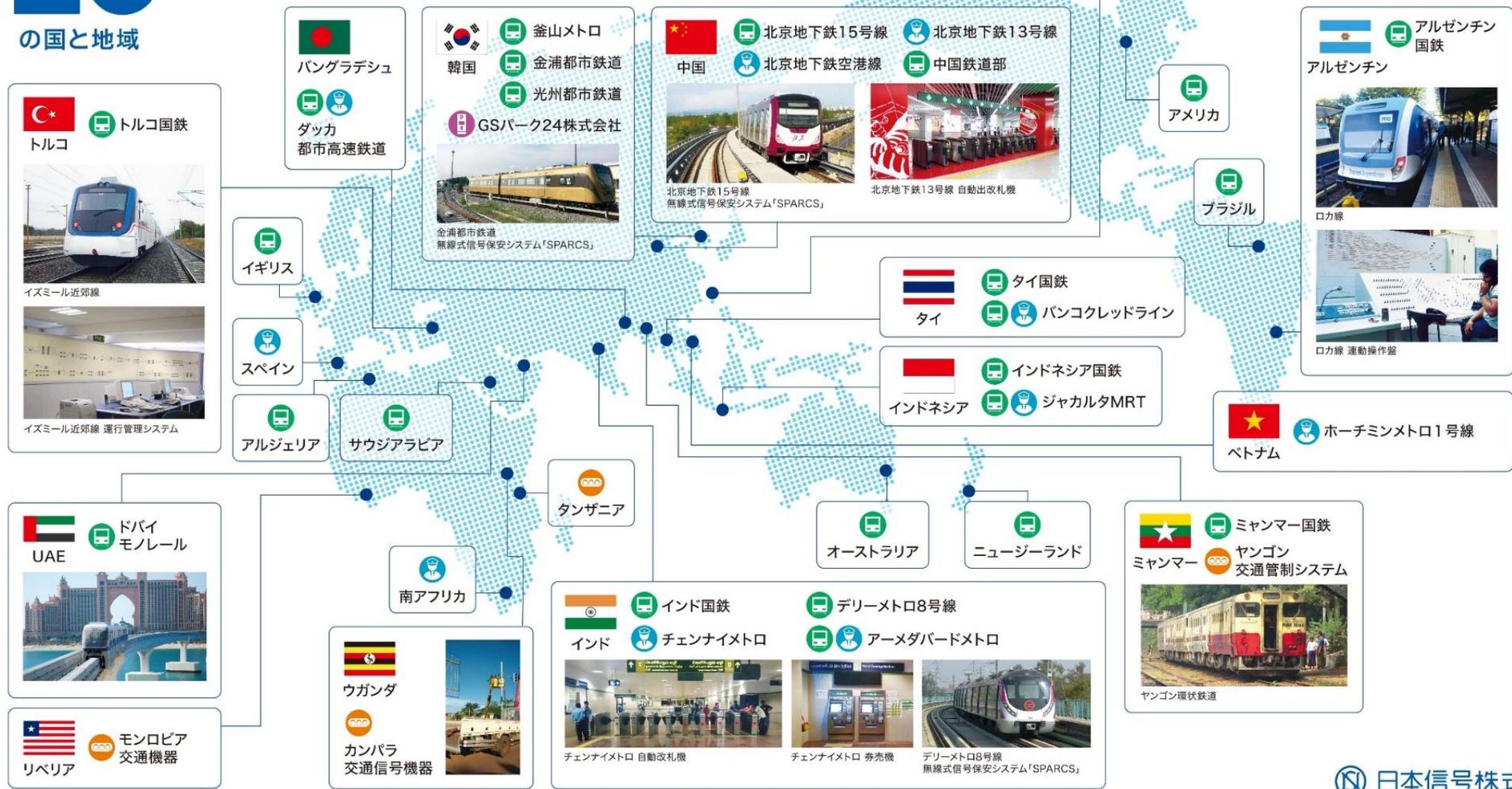
価値創造に向けて

世界にビジネスを展開

28

の国と地域

慢性的な交通渋滞と深刻な大気汚染を軽減する「鉄道」の需要は、世界的に高まっています。日本信号は国内で得た技術力とノウハウを活かし、活躍の場を世界に広げています。



海外トピックス

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



ウガンダ共和国で交通信号システムを受注

ウガンダで3案件目となる交通信号案件を受注。
交通信号制御機、交通信号灯器、センサをカンパラ市内の9交差点に設置予定。
これまで設置したものと併せて計13交差点で当社製信号機が稼働。



技能継承・技術水準の向上

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



当社社員が埼玉の名工として表彰

令和2年彩の国優秀技能者表彰式において、久喜事業所品質保証部 市川雅晴が「彩の国優秀技能者（埼玉の名工）」として表彰。

長年の鉄道信号保安装置の製品検査、現地施工・改修業務に携わり、安全輸送の実現に貢献したことが評価された。



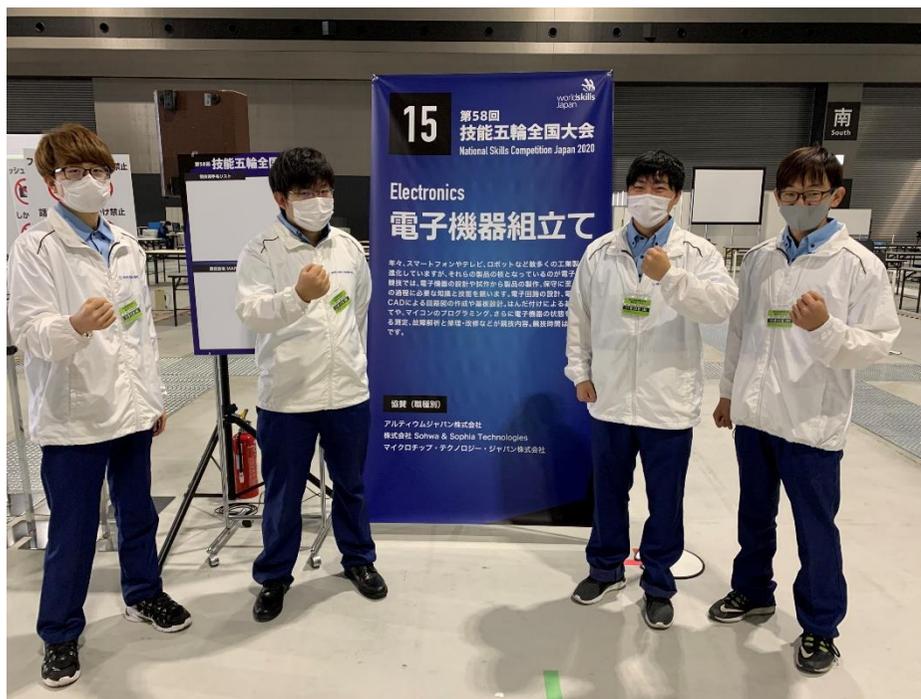
技能継承・技術水準の向上

4 質の高い教育を
みんなに



技能五輪全国大会（2020 あいち大会）出場

「電子機器組立職種」に当社社員4名が出場。2021年のシード権を獲得。
2017年度より連続出場。



CSRトピックス

3 すべての人に
健康と福祉を



令和2年7月豪雨 義援金贈呈

令和2年7月豪雨について被害のあった、鉄道事業者2社、授産施設4法人について義援金贈呈を実施。



肥薩おれんじ鉄道様
御見舞目録贈呈の様子

CSRトピックス

3 すべての人に
健康と福祉を



ゴールドコンサートに協賛

障害をもつミュージシャンがその音楽性を競うとともに、障がい者の能力や可能性の高さを伝える国際的音楽コンクール「ゴールドコンサート」に協賛。



グランプリの方に日本信号賞を授与

業績予想等は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により、これらの予想とは大きく異なる可能性があります。